

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和6年7月2日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

| | | | | |
|-------------------|--|---------------------------------|------------------------------------|-------|
| 会 派 名 | 市民の会 | | 代 表 者 | |
| | | | 議員名 | 美藤 和広 |
| 派遣者氏名 | 美藤 和広 | | | |
| 視 察 先 | 川崎市こども夢パーク(川崎市高津区下作延5丁目30番地1号) 戸田市役所(戸田市上戸田1丁目18番1号) | | | |
| 調 査 事 項 (調査目的) | 川崎市:子育て支援施策「こども夢パーク」 “子どもの自由な発想で遊び、学びつくる施設”の見学と考え方 戸田市:戸田型オルタナティブ・プラン(総合的な不登校対策) | | | |
| 日 時 | 令和6年5月15日(水曜日)~令和6年5月16日(木曜日) | | | |
| 支 払 金 内 訳 | 科 目 | 支 出 額 | 摘 要 | |
| | 宿 泊 料 | 13,500 | 定額 | |
| | 日 当 | 6,000 | @3000×2日 | |
| | 鉄 道 賃 (モジュール) | 1,070 | 別紙行程表参照 5/14 別会議から参加、5/17 講習会参加 | |
| | 航 空 賃 | | | |
| | バ ス 賃 | 200 | 別紙行程表参照 | |
| | 船 賃 | | | |
| | タ ク シ ー | | | |
| そ の 他 | 2,444 | 視察先への手土産(3人で按分) 戸田市資料代(500円) | | |
| 合 計 | 23,214 | | | |
| 備 考 | | | | |

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和6年7月2日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

| | | | |
|---------------------|--|-----|-------|
| 会 派 名 | 市民の会 | 代表者 | |
| | | 議員名 | 美藤 和広 |
| 派遣者氏名 | 美藤 和広 | | |
| 視察先及び調査事項 (調査目的) | 川崎市：子育て支援施策「こども夢パーク」 “子どもの自由な発想で遊び、学びつくる施設”の見学と考え方 戸田市：戸田型オルタナティブ・プラン(総合的な不登校対策) | | |
| 日 時 | 令和6年5月15日(水曜日)～令和6年5月16日(木曜日) | | |
| 視察先対応者 | 川崎市：川崎市子ども夢パーク 副所長 千葉 志門氏 戸田市：教育長 戸ヶ崎 勤氏、伊藤 和三氏 戸田市立教育センター所長 小肥 明広氏 | | |
| (調査結果の概要及び所見)別紙でも可 | | | |
| 別紙参照 | | | |

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

川崎市:子育て支援施策「こども夢パーク」

“子どもの自由な発想で遊び、学びつくる施設”の見学と考え方

○子どもの居場所提供

夢パークは、不登校の子どもたちが自由に過ごせる居場所を提供し、安心して自分の時間を過ごせる環境を整備している。

○個別サポートとカウンセリング

専門のスタッフが個別相談を行い、子ども一人ひとりに合った支援を提供する。カウンセリングやメンタルサポートを通じて心理的な支援を行う。

○学習支援プログラム

学習支援を行い、学校での授業に代わる教育プログラムを提供している。個別指導やグループ学習を通じて学習意欲を引き出す取り組みを実施している。

○社会性の育成

グループ活動やワークショップを通じて、社会性やコミュニケーション能力を育むプログラムを提供している。子どもたちが互いに交流し、社会的なスキルを磨く機会を設けている。

○保護者支援

保護者への支援も充実させており、子どもの不登校問題についての相談や情報提供を行っている。保護者同士の交流や支援ネットワークの構築も推進している。

○地域連携

地域の学校や教育機関、他の NPO 団体と連携し、包括的な支援体制を構築している。地域全体で子どもたちを支える取り組みを進めている。

○イベントやアクティビティ

子どもたちが楽しみながら参加できるイベントやアクティビティを定期的で開催している。

子どもたちの自己表現や自己肯定感を高める機会を提供し、活動を通じて、不登校の子どもたちの自立を支援し、再び学校生活に戻れるようサポートしている。

<所感>

どろんこやかまどなど、私たちの世代が小さいころ遊んだ環境がルールに基づき許される環境は、凍り付いた子どもの心を融かしてくれると思う。寄り添うスタッフの存在が大きく、この環境維持の一番大きな要素だと思う。川崎市にこの施設が拡大できない理由でもある。

周囲の住宅のご理解や支援がこれからの事業維持・拡大の重要な課題でもある。

三田には自然環境として、このような環境を造ることは難しくないが、この心を受け止める施設や体制、そしてスタッフの充実が必要である。単に不登校を無くすというのではなく、その一人一人に寄り添える環境づくりや人材確保が大きな課題と考える。

(美藤)

埼玉県戸田市のオルタナティブ・プランについて

○事業概要

埼玉県戸田市のオルタナティブ・プランは、従来の教育制度や手法とは異なるアプローチで、子どもたちに多様な学びの場を提供することを目的としている。

- 目的：子どもたちの個性や興味を尊重し、多様な学びの場を提供することにより、自己肯定感や学習意欲の向上を図る。
- 対象：小学生から高校生までの児童・生徒。
- 実施期間：年間を通じて実施、特定のプログラムは季節ごとに開催。
- 運営主体：戸田市教育委員会と地域の教育支援団体の共同運営。
- 予算：市の教育予算からの配分および民間からの寄付・助成金を活用。

○特長

1.多様な学びの選択肢:

- 自然体験活動、芸術プログラム、科学実験など、多岐にわたる学習活動を提供。
- 通常のカリキュラムに加え、専門家やボランティアによる特別講義やワークショップを実施。

2.個別指導と少人数クラス:

- 子ども一人ひとりの興味やペースに合わせた個別指導を重視。
- 少人数クラスでの指導により、きめ細やかなサポートを実現。

3.地域連携とコミュニティ支援:

- 地域の企業やNPO、大学と連携し、実践的な学びを提供。
- 地域住民が参加するイベントや活動を通じて、コミュニティとのつながりを強化。

4.柔軟な学習環境:

- 校舎外の施設や自然環境を活用した学習活動を推進。
- オンライン学習システムを導入し、自宅学習の支援も実施。

○課題

1.予算確保の難しさ:

- プログラムの充実には継続的な資金が必要であり、予算の確保が課題となっている。
- 民間からの寄付や助成金に依存する部分が多く、安定的な資金調達が求められる。

2.教育効果の評価:

- 従来の学力評価基準とは異なるため、教育効果を適切に評価する指標の開発が必要。
- 学習成果の測定や評価方法の確立が課題。

3.参加者の多様性確保:

- 特定の層に偏らず、幅広い層の子どもたちが参加できるようにするための工夫が必要。
- 経済的、文化的背景に関わらず、全ての子どもたちがアクセスできるような仕組み作りが求められる。

4.教員およびスタッフの確保:

- 専門性の高い教員やスタッフの確保が困難な場合がある。
- 高い質の教育を提供するために、教員の研修やサポート体制の強化が必要。

<所感>

戸田市のオルタナティブ・プランは、多様な学びの場を提供することで、子どもたちの個性や興味を尊重し、自己肯定感や学習意欲の向上を図ることをめざしている。しかし、予算確保の難しさや教育効果の評価、参加者の多様性確保、教員の確保など、いくつかの課題もある。これらの課題に対処しながら、持続可能なプログラム運営を実現するための取り組みが求められている。

今回、教育長じきじきの説明が熱く、今までの取り組みが伝わってきた、と思う。教育改革のコンセプト…AIでの代替が難しい力等の育成、産官学との連携したリソースの活用、「経験と勘と気合（3K）」から「客観的な根拠」、授業や生徒指導等を科学する

今までの教育からの脱却指針が、戸田市教育の根幹で、特に、「教育を科学する」試みが興味深い。データ化し、その膨大なデータを活用して、可視化に展開している。

「誰一人取り残されない」教育のために、一部のベテラン教師の3Kではなく、科学的・専門的知見を導入し、「特別でない、特別支援教育」を図っている。義務と禁止ではなく、楽しい・やりたいことを安心して学べる場所こそ登校したい魅力ある学校になる。そのための、多様な学びの場の選択肢が充実している。

選択肢として、小学校ではいつでも入れる教室「ばれっとルーム」、中学校では教室さわやか相談室、高校では生徒支援脅威質「いっぽ」、教育支援センターでは従来の校長OBではなく民間教育施設「すてっぷ」、そして、オンライン授業やメタバースの「room-K」と実に多様である。

単に多様なのではなく、その一つひとつの思い入れがあり、紆余曲折しながら進めてきた。だからこそ、教育長の思いが強い。教育委員会としての決意も強い。

三田でも、フリースクールやメタバースなど始めているが、本来の人に寄り添い、一人ひとりの個性を見直し、支えられる教育こそ、オルタナティブ・プランだと感じた。

これからの三田の教育を見直す柱を教えられたと思う。

(美藤)